

# 地元田川で 起こった出来事



ここからは、田川で起こったことを紹介しよう。

## 炭鉱を支えた労働者たち

日中戦争から第二次世界大戦にかけて、若者や働き手の多くが兵隊として出征したため、筑豊を含む日本全体が労働力不足に苦しみました。その対策として、政府は、1939（昭和14）年、当時の植民地だった朝鮮半島で労働者を募集し、1944（昭和19）年には、日本全土で実施していた「国民徴用令」による徴用を朝鮮半島でも開始しました。「国民徴用令」は、戦時の労働力確保のために国民を強制的に動員できる法律で、応じなければ罰せられました。田川地区の炭鉱も朝鮮半島から海を渡ってきた労働者に支えられていたのです。



戦争中は外国から労働者を連れてきていたんだね。



戦後には、こんな大事故も起きたんじゃ。

## 二又トンネル爆発事故

戦争の爪あと

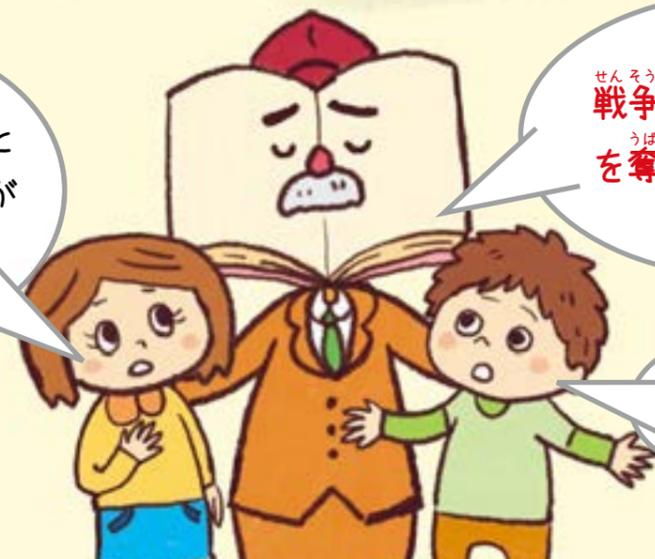
戦後まもない1945（昭和20）年11月12日午後5時15分、田川郡添田町落合二又にあったトンネルで大爆発が起きました。日本の旧陸軍がトンネルに隠していた約530トンの火薬をアメリカ軍が焼却処分しようとした際に起きた事故です。爆発によってトンネルがあった山が二つに裂け、死傷者は300人近くにのぼり、とくに爆心地から1キロ圏内は、岩石や土砂、不発弾などが落下し、家屋や山林、家畜なども大きな被害を受けました。

この事故は、被害の大きさから「三発目の『原爆』」ともいわれています。戦争による人権侵害は、戦争が終わった後も私たちの身近で起きていたのです。



私たちのふるさとも、こんなことがあったんだね。

戦争は人々から「人権」を奪っていたんじゃ。



この後どうなるのかな？

そして戦後、世界中で人権問題に対する取り組みが始まった